

ふくやま美術館について

1 概要

緑豊かな福山城公園の中にあり、周囲の環境との調和を図り、公園と連携する都市型・公園型美術館を設計の基本において建設され 1988 年（昭和 63 年）11 月 3 日に開館、2020 年（令和 2 年）12 月 8 日には、ふくやま書道美術館が館内に移転した。

多様な使用形態が可能な展示空間、「見る」だけではなく、自ら「創造する」場を提供できる教育普及のスペース、創作発表の場として活用できるギャラリー、また、様々な催しができるホールなどを備えた美術館としての特徴を生かし、生涯学習の立場に立った人づくりの観点を基調とした、広域圏内（福山市・府中市・神石高原町）の芸術・文化の拠点として、広く愛され、楽しまれる広域圏の住民参加による開かれた美術館運営を目指している。

2 施設概要

- (1) 所在地 広島県福山市西町二丁目 4 番 3 号
- (2) 敷地面積 109,790 m²
- (3) 建築面積 3,311 m²
- (4) 延床面積 7,007 m²
- (5) 構造 鉄筋コンクリート造 地上 2 階 地下 1 階
- (6) 開館 1988 年（昭和 63 年）11 月 3 日
- (7) 開館時間等 9 時 30 分～17 時 00 分
休館日：月曜日（祝休日の場合翌日）、年末年始
入館料：所蔵品展 310 円、特別展 その都度定める

(8) 部門別面積

区 分		面 積
展示部門	常設展示室（2階）	576m ²
	企画展示室（1階）	576m ²
	ギャラリー	216m ²
	ホール	270m ²
小 計		1,638m ²

区 分		面 積
収蔵庫	第1収蔵庫	167m ²
	第2収蔵庫	72m ²
	第3収蔵庫	216m ²
	収蔵庫前室	63m ²
小 計		518m ²

区 分		面 積
教育・普及部門	工芸版画室	114m ²
	デッサン室	114m ²
	多目的室	114m ²
	茶室	114m ²
小 計		456m ²

区 分		面 積
書道美術館	常設展示室	90m ²
	企画展示室（1階）	60m ²
	倉庫	71m ²
	その他	75m ²
小 計		296m ²

区 分		面 積
その他	共用スペース	2,193m ²
	事務室等	368m ²
	設備関係	960m ²
	喫茶室	110m ²
小 計		3,631m ²

3 運営の基本方針

- ①「地域に根ざした美術館」
- ②「世界に向かって開かれた窓としての美術館」
- ③「現代を見すえ次代を先取りする美術館」
- ④「美術と人間にふれあう美術館」

この4つの柱をたて、「見る」、「つくる」、「学ぶ」、「ふれあう」場として、より充実した美術館活動を目指している。

4 美術館の作品収集方針

- (1) 福山・府中広域市町圏関連作家の作品
- (2) 瀬戸内圏関連作家の作品
- (3) 日本の近・現代美術の作品
- (4) イタリアを中心とする近・現代ヨーロッパ美術の作品
- (5) 各分野における若手及び中堅作家で将来の美術界での先導的役割が期待される作家の作品

5 主な所蔵品

- (1) 福山・府中広域圏関連作家の作品

作 者	作品名＜作成年＞
大村 廣陽	雪＜1929 年＞
大島 祥丘	大山冬日＜1987 年＞
高橋 秀	風 (fu) ＜2003 年＞

- (2) 瀬戸内圏関連作家の作品

作 者	作品名＜作成年＞
片山 牧羊	漁村春懶＜1929 年＞
森谷 南人子	内海初夏（高島）＜1944 年＞
奥田 元宋	若葉の頃＜1946 年＞

- (3) 日本の近・現代美術の作品

作 者	作品名＜作成年＞
安井 會太郎	手袋＜1943 年－44 年＞
須田 国太郎	冬の漁村＜1937 年＞
岸田 劉生	麗子十六歳之像＜1929 年＞
岸田 劉生	静物（赤き林檎二個とビンと茶碗と湯呑）＜1917 年＞

(4) イタリアを中心とする近現代ヨーロッパ美術の作品

作 者	作品名＜作成年＞
ギュスターヴ・クールベ	波＜1869 年＞
ウンベルト・ボッチオーニ	カフェの男の習作＜1914 年＞
ジョヴァンニ・セガンティーニ	婦人像＜1883－84 年＞
ジャコモ・バッラ	輪を持つ女の子＜1915 年＞
ルチオ・フォンタナ	空間概念－銀のヴェネツィア＜1961 年＞
マルク・シャガール	青い花瓶＜1978 年＞

(5) その他の所蔵品（松本コレクション）

作品名等
斗々屋茶碗 銘 深山木＜朝鮮王朝時代 16 世紀＞
本阿弥光悦 黒茶碗 銘 軒窓＜江戸時代（17 世紀）＞

(6) その他の所蔵品（小松安弘コレクション）

作品名等
国宝「太刀 銘 筑州住左（江雪左文字）」＜南北朝時代 14 世紀＞
国宝「短刀 銘 左／筑州住（号じゅらく（太閤左文字）」＜南北朝時代 14 世紀＞

※上記 2 つを含む国宝 7 口、重要文化財 6 口、特別重要刀剣 1 口からなる全 14 口の日本刀コレクション

6 利用者数の推移

（単位：人）

区 分	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
合 計	212,275	112,835	79,765	77,456	134,521	135,036	163,464

ふくやま美術館について

○基本構想で検討・整理する事項

美術館の現状・課題

- ・入館者数の推移や収蔵品等の状況
- ・美術館の強み(立地、所蔵品など)
- ・設備、機能面の状況
- ・美術館を取り巻く環境

めざす姿とコンセプト

- ・改修後の美術館の在り方、次の40年間を見据えた役割と機能
- ・文化ゾーンにおけるその他施設との連携(集客に向けた取組)

施設・設備の整備

- ・諸室の用途検討
- ・コア部分(収蔵部門、展示部門)の整備内容
- ・整備スケジュール

○基本構想策定に向けたスケジュール(案)

区分	2025年度									2026年度		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
業者選定・契約	プロポーザル公告	契約締結										
現状と課題整理												
基本構想策定			骨子作成			素案作成			パブコメ	最終(案)作成		策定
検討委員会	リストアップ・委嘱	第1回 現状・課題整理		第2回 骨子審議		第3回 素案審議		第4回 最終(案)審議				
議会												

※検討委員会は年4回程度開催予定